

# BY BLUE

2005

VOL

17

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌 バイブルー



## 風景

## 月夜の川崎

天神祭の船渡御が行き交う大川は、淀川の支流。江戸時代には四季折々、涼み船や月見船が往来し、たいそう賑わったといわれています。

大川に架かる橋の一つ、川崎橋の右岸側は、その昔「天満の川崎」と呼ばれ、

対岸の備前島(現在の網島町)へ向かう渡しがありました。

その様子は、江戸末期の浮世絵「浪花百景」にも、「川崎の渡し月見景」として描かれています。

また、網島は、近松門左衛門の円熟の作品、「心中天網島」の舞台。

一七二〇年十月の十五夜の頃、紙屋治兵衛と遊女小春が

寺で心中する物語。実話を題材に脚色したと

伝えられています。真実は定かではありません。

ただ、川面が映える、

美しい月の夜だったそうです。



## おでかけインフォメーション



## もちつきをしよう

滋賀県立琵琶湖博物館

昔ながらの蒸籠(せいろう)や臼・杵を使って餅をつき、試食します。

- 日時** 2005年12月10日(土)  
午後1時30分～3時(受付は午後1時～)
- 場所** 琵琶湖博物館・生活実験工房
- 定員** 30名
- 申込方法** 当日受付 \*どなたでも参加できます。

\*申込人数が多い場合は整理券を発行する場合があります。

お問い合わせ 滋賀県立琵琶湖博物館  
TEL.077-568-4811 FAX.077-568-4850  
ホームページ <http://www.lbm.go.jp/>

## 第9回 名張川と歩こう会

川の会・名張

川原を歩いて水質テストをしたり、パウムクーヘンやお鍋をつくって食べよう!

- 日時** 2005年12月11日(日)  
午前10時～午後3時(雨天中止)
- 場所** 名張川周辺
- 持ち物** おにぎり、おわん、おはし
- 申込方法** 団体は事前申込 \*参加無料

お問い合わせ 川の会・名張 090-4798-5369(中西)090-5101-9149(横山)  
ホームページ <http://www.e-net.or.jp/user/yosshi/kawanabari/kawanabarimain.htm>

## 紙芝居教室・クリスマス

水道記念館

紙芝居を通じて、幼児に水の大切さを学んでもらいます。みんなで手遊びや手品などをして、楽しいひとときを過ごしましょう。

- 日時** 2005年12月中の土・日・祝日  
午前11時15分～午後12時(午前の部)  
午後2時～2時45分(午後の部)
- 場所** 水道記念館
- 申込方法** 自由参加
- 休館日** 月曜日(休日の場合は翌日)、年末年始

お問い合わせ 水道記念館  
TEL.06-6324-3191 FAX.06-6324-3114  
ホームページ <http://www11.ocn.ne.jp/kinenkan/>

## イルミネーションフェスタ2005

滋賀県湖北町

色とりどりの電球を使って魚、花、動物などを夜空に浮かび上げらせ、湖北町の冬の風物詩となっています。メインシンボルは高さ15メートルもあります。

- 日時** 2005年12月3日(土)～2006年1月8日(日)  
午後5時～10時
- 場所** 湖北町役場庁舎前公園

お問い合わせ 湖北町役場  
TEL.0749-78-8310(企画課)  
ホームページ [http://www.geocities.jp/kohoku\\_illumi/](http://www.geocities.jp/kohoku_illumi/)



(「ワコオオナマス」写真提供:滋賀県立琵琶湖博物館)

# 鯰

## を食わずして――

**ギョウ！ 300キロ  
世界最大級の淡水魚**

体長3メートル、胴回り2メートル、体重300キロ。ヘビー級の格闘家だとしても、大きすぎますね。これは、ナマスの話。古今東西、ナマスといえは巨大魚の代名詞で、事実、世界最大級の淡水魚です。

かつてヨーロッパのナマスなどは、乱獲で数が減るまでは非常に大きく、人を飲み込むなどの不穏な噂が絶えなかつたほど。アジアでは今年、タイのメコン川で重量293.5キロのナマスが捕獲され、世界最大記録として報じられました。放流も検討されたようですが、死んでしまったため、村人たちの胃袋におさまったのだとか。

**日本のナマスは3種類  
うち2種が琵琶湖の固有種**

世界のナマスは、確認されている

だけでも2400種。その内の3種が日本にいて、本種は広範囲に分布していますが、あとの2種は琵琶湖・淀川水系の固有種です。最大は、琵琶湖の主と呼ばれるワコオオナマスで、体長90〜120センチ。メコン川に比べるとかわいいものですが、それでも1メートルを超す大きさです。もう1種は、体長30〜50センチのイワトコナマス。3種類のナマスの中で、最も美味といわれています。

**自然を、文化や歴史を味わう**

小さな目と大きな口に、長く伸びた2本のヒゲ。よく見ると愛嬌のある顔をしたナマスですが、食べるとなると、ちよつとこわい感じがしないでもありません。が、日本では、江戸時代の頃から鍋や蒲焼きなどで人々に親しまれており、伝統ある食文化、食材といえます。もちろん現在も、ナマス料理を食べさせる店は

たくさんあります。どちらかといえば高級なイメージですが、アメリカなどではもつと一般的で、安価な白身魚としてスーパーに並んでいます。「泥臭いと思っていたが、白身で淡泊でおいしい」。初めて淡水魚料理を食べた感想として、よく聞く言葉ですが、ナマスもそのとおり。滋養強壮に良いとされ、高蛋白で低脂肪。気軽に味わうのなら、滋賀県立琵琶湖博物館のレストランにある、なまず天丼を召し上がってみては。

\*\*\*

世界各地に生息するナマスですが、生物は、それ単体で存在するのではなく、自然環境や人間の生活、土地の文化や歴史とも深く関わっています。食は、それらすべてを味わうことに通じ、また、それらをあらためて考える、良いきっかけとなるのではないのでしょうか――。



(「イワトコナマス」写真提供:滋賀県立琵琶湖博物館)

# どこへゆくのか、琵琶湖の渡り鳥

～水と人との関わりを見つめる～世界の水辺から



どこから飛んで来て、どこへ飛んで行くのか

毎年やってくるあの鳥は、去年と同じ鳥なのだろうか。大昔から謎だった渡り鳥の生態が、さまざまな調査によって明かされてきたのは近年のこと。まだまだ不明な点がたくさんあります。しかし、それは「ロマン」と言いかえることができるかもしれない。人間が憧れ続ける大空を自由に羽ばたき、地球を半周もする渡り鳥たちについて、

寒い季節には暖かい土地へ。雨の少ない時期には雨の多い地域へ。子育て期には餌が豊富な場所へ。北の国から来て、日本で冬を過ごすのが冬鳥。南の国から来て、日本で夏を過ごすのが夏鳥。渡る途中で、日本に立ち寄るのが旅鳥です。人間は地図を見ながらでも迷ってしまうのに、鳥はなぜ、何千キロもの距離を正確に移動できるのでしょうか。確かなことは分かりませんが、日照時間や温度を体で感じ、太陽や星座の位置で方向を定めているようです。しかし、照る日があれば、曇る日もあります。台風の影響を受けたり、天敵に襲われたりして、方角を見失うこともあるといいます。優雅な空の旅というわけではなさそうですね。

## 水辺から水辺へ、おいら渡り鳥

琵琶湖には、毎年たくさん水鳥が渡ってきます。水鳥とは、簡単に言えば水辺に住む鳥のこと。琵琶湖のガンやカモの数は、およそ5〜6万羽。野球場なら満員御礼です。天然記念物のオオヒシクイ、湖北町の鳥であるコハクチョウやカモの仲間が越冬し、カイツブリやサギたちは子育てをします。特に琵琶湖の北湖北は、遠浅の湖岸が続く。ヨシをはじめとする水草類も豊富で、まさに野鳥の楽園。このように、世界でも貴重な水環境である琵琶湖は、1993年にラムサール条約登録湿地となつています。ラムサール条約とは、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約であり、大切な湿地の環境を世界の国々が保護しようという国際的な取り決めのこと。つまり、鳥や魚や動植物の住み家であり、1400万人の飲み水である琵琶湖を、私たちは永く見守っていく必要があるのです。

### 冬鳥のコース

#### コハクチョウ

北極に近いシベリアの北部で生まれ、はや2カ月で飛ぶようになり、半年も経たないうちに琵琶湖へ渡ってくるコハクチョウは、「湖北町の鳥」として親しまれています。



#### マガン

ロシア極東北部のツンドラ地帯から、北海道を経由して本州各地へ渡ります。琵琶湖にもやって来ますが、毎年10羽前後。天然記念物であり準絶滅危惧種にも指定されています。

#### 日本



#### オオヒシクイ

ヒシクイの亜種であるオオヒシクイはガンの仲間、国の天然記念物。カムチャッカ半島から渡って来ます。琵琶湖は、南限の越冬地として大変貴重な場所となっています。

#### ユリカモメ

ユーラシア大陸に広く分布。9月の初めに渡ってきて、6月頃まで残る。琵琶湖で一番多いカモメの仲間、人になつきやすく、すぐ近くまで寄ってきます。

#### ツバメ オオヨシキリ ムナグロ アマサギ

### 夏鳥のコース

#### 湖北野鳥センター



湖北町水鳥公園に位置する、水鳥と自然環境の保護を目的とした施設。観察室に並べられたフィールドスコープで水鳥の様子をウォッチングできるほか、観察会や鳥のおはなしの会などのイベントも定期的に行われています。環境省の「琵琶湖水鳥・湿地センター」が併設されており、琵琶湖に関するさまざまな情報を楽しく知ることができます。お問い合わせ  
TEL:0749-79-1289 (湖北野鳥センター)  
TEL:0749-79-8022 (琵琶湖水鳥・湿地センター)

# 琵琶湖・淀川流域圏の再生計画

琵琶湖・淀川流域圏再生に向けた戦略

平成15年11月に、内閣官房都市再生本部において、第6次都市再生プロジェクトとして、「琵琶湖・淀川流域圏の再生」が決定されました。これを受け、琵琶湖・淀川流域圏に深い関わりを有している国の関係省庁及び地方公共団体からなる「琵琶湖・淀川流域圏の再生協議会」が設置され、平成17年3月に「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」が策定されましたので、その一部をご紹介します。

また、計画の実施は、新たに設置された「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会」により、順次進められています。  
なお、この取り組みの詳細につきましては、近畿地方整備局のホームページ（<http://www.kkrm.itc.go.jp/>）をご覧ください。

## 水と自然・文化



琵琶湖・淀川流域は、我が国多数の人口・資産が集積する地域であると同時に、世界的にも稀少な古代湖である琵琶湖を中心に豊かな自然がはくまれ、多くの歴史文化遺産が残されてきた地域である。しかしながら、高度成長期の開発等により、流域における人と水とのかわり、水・土砂移動、生き物の生態・生育環境の連続性等が、分断され、貴重な自然や水と人とのつながりが損なわれてきた。

この「分断」を「連続」に転換し、「水でつながる人・自然・文化」を基本コンセプトに、この戦略のもとで、流域圏のあらゆる関係機関が連帯して具体的な行動を展開していく。これらの行動を通じて、豊かな生態系を育み淡水魚類の宝庫である琵琶湖・淀川、京と大阪を結ぶ動脈としての淀川、水の都大阪かつてあった町のなかのせせらぎ、川を向いた街並、豊かで清潔な水等の再生を目指す。

### 戦略・01

## 生命の水を再生する

### 適正な水管理のための水環境改善計画の作成

寝屋川等の都市内流域、琵琶湖流入河川や木津川、桂川等の上流河川等、いくつかの流域をモデル流域として設定し、水源かん養機能や地下水流動等まで含めた水循環系について調査研究を行い、適正な水管理のための水環境改善計画を作成する。これらのモデル流域において、森林管理、緑地保全、透水性舗装等の対策が水質、水量等に与える効果を検証する。

### 安定した水量の確保

必要なときに安定して水が利用でき、また生物の生態・生育のためにも河川や流域内の水域の流量を確保するため、水資源開発施設の連携運用、再編や整備、節水意識の醸成等を行う。また、さらなる効率的な水運用を目指してダム操作、水利権許可等の見直しについて検討する。

### 水質の改善

人々が安心して利用でき、多様な生物が生態・生育できる水質を確保するため、流域圏全体で、例えば「みんなが泳げる南湖・淀川の復活」等の具体的な目標を定めた水質改善プログラムを定め、面源負荷対策、下水道整備等を推進する。

### 自然な河原の復元

自然の流況に近づけるため、ダム・堰の運用により水位変動や攪乱の増大を図り、自然な河原を復元する。

### 生態系と調和した琵琶湖水位変動への改善

琵琶湖水位の季節変動が、魚類の産卵等、生物の生態・生育にとって望ましくなるよう、治水、利水上の課題や、生活、産業への影響を踏まえ、瀬田川洗堰等の運用、貯留施設の活用等を検討し、琵琶湖水位の変動を改善する。

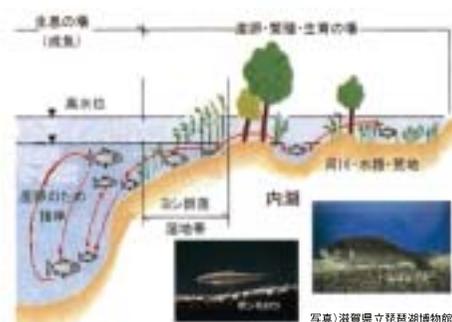


写真)滋賀県立琵琶湖博物館

### 戦略・02

## 水辺をつなぐ

淀川、木津川、桂川、猪名川等の各河川沿いや琵琶湖周辺に、舟運、サイクリング、ウォーキングで水辺をつなぐ「みずべプロムナードネットワーク」を構築する。そのため、遊歩道、航路等の連続性の総点検を行い、河川環境への影響や利用の動向を踏まえた上で分断されている箇所を計画的な解消を図る。



**ルートの延長**  
サイクリング・ウォーキング  
総延長 約633Km(支川を含む)  
舟運  
淀川河口～伏見港 約44Km

### 戦略・03

## 水辺の拠点を整備する

水辺プロムナード周辺において「川の駅」「湖の駅」を設置する等、川に向けた街づくりを進める。

### 戦略・04

## まちにせせらぎを導入する

水枯れの生じている河川や流域内の水路に水を取り戻すとともに、例えば御堂筋や駅前再開発地区等に導水を行う等、水利用の弾力的運用や未利用水の活用を図り、まちなかのせせらぎを導入する。



堀川

「再生計画」  
琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会

国土交通省、農林水産省、林野庁、経済産業省、環境省、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、京都市、大阪市、大津市内閣官房都市再生本部事務局（オブザーバー）

### 戦略・05

## 流域圏の自然環境をつなぐ

琵琶湖・淀川流域圏の湖沼・河川・水路・河畔林・里山・森林等の連続性が分断された自然環境をつなぎ、流域の生態系ネットワークを再生する。



### 戦略・06

## 水と人とのつながりをとりもどす

琵琶湖・淀川そのものを「流域ミュージアム」とし、水にかかわる自然、歴史、文化等について、学習・体験するなかで、水と人とのつながりを再認識できるよう、情報発信や施設整備を行う。また、水と人々の暮らしのかかわり方として伝承されてきた流域の「水文化」を、健全な形で次世代につなぎ、水にかかわる知恵を継承・発展していくために「水との復縁」運動を展開する。

### 戦略・07

## 計画を推進するしくみを作る

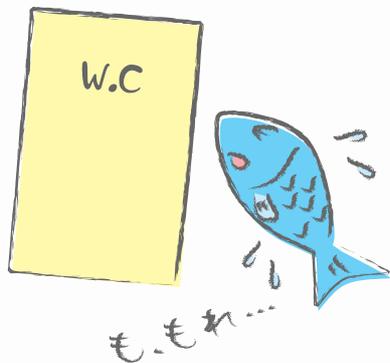
琵琶湖・淀川流域圏の再生計画を推進するため、統合的流域管理の視点に立って行政機関等が協議・調整を行う場として「琵琶湖・淀川流域圏再生協議会」を設置するとともに、計画推進を確実なものとするために、計画の進捗状況とその評価について公開による年次報告会を実施し、その結果について、必要に応じて第三者を含めた評価委員会に報告する。また、再生計画をNPO等と連携を図りつつ推進するため、各種活動を支える橋渡し役となる組織として「琵琶湖・淀川流域圏再生機構」を設置するとともに、流域圏における情報拠点、交流拠点となる「流域再生センター」を設置する。

# 魚は水を飲まないの？

人間や動植物と同じように、魚にも水分が必要です。そして、魚のまわりは水だらけです！

一口に魚と言っても、大きく分けて、海に  
あわ海水魚と、湖や川などの真水にあわ淡  
水魚とがいます。じつは、海水魚は水を飲み、  
淡水魚は水を飲みません。

なぜなら、海水魚は水を飲まない、体の  
水分がどんどん外に出ていってしまいが、  
淡水魚は水を飲まなくても、体の中にど  
んどん水分が入ってくるからであ。



この正反対の違いを、ごく簡単に説明しま  
すと、海水魚は濃い海水に体の水分を取られ  
てしまうため、たくさん海水を飲み、濃い尿を  
少しだけ出して、体内の水分や塩分などを調  
節しています。一方、淡水魚は自分の体液より  
も薄い水に暮らしているため、放っておいて  
も体内に水分が入ってきます。そこから水を  
飲む必要がなく、さらに大量の薄い尿を出して、  
体内の水分量を調節しているのです。魚の体も、  
思ったより複雑なようであ。

いろんなタイプの人がいるように、魚にもいろんな種類が  
います。きれいな水が好きな魚と、汚い水でもがまわらない魚。  
汚くてもがまわらないのは、体内で水をきれいにすることがで  
きるからで、決して不潔なタイプというわけではありません。  
汚れきってしまった海や川に、魚はいないのであから。

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（Biyoセンター）は、琵琶湖・淀川水系の水環境改善のために、自然の浄化能力を生かした水質改善など、新たな水処理技術を開発する研究開発の場として、また、水環境改善に対する取り組みについて、多くの人々に知ってもらうための場として設置された施設です。



# 自然観察会に行こう！

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（<sup>びよ</sup>Biyoセンター）には、琵琶湖や葉山川から水を引き込み、多くの生き物があめる「ビオトープ」として整備した多自然型水路や琵琶湖型池があります。また、Biyoセンターは琵琶湖に面しているという立地条件もあり、移ろいゆく四季の中で多くの動植物を目にする事ができます。

Biyoセンターでは、このような動植物の観察や体験を中心としたメニューからなる、自然観察会を毎年開催しています。

今回は、今年の夏休みに開催した自然観察会についてご紹介します。



主な魚はタイリクバラタナゴ、カネヒラ、オイカワなど



## 魚の観察

参加者67名、快晴

夏休み最初の週末の7月23日に魚の観察会を行いました。琵琶湖博物館の中井克樹先生を講師としてお迎えし、Biyoセンターで見られる魚類の生息状況、また、投網、夕暮網、セルビン等の採集道具の使い方を学習しました。その後、みんなで水路や池に入り、魚類採集を行いました。

みんなでとった魚は、タイリクバラタナゴ、カネヒラ、オイカワ等、13種もの魚がとれました。



みんなで採集した魚を観察

魚類の採集状況



## 昆虫の観察

参加者45名、快晴

夏休みも終盤、残りの宿題が心配になってきた8月20日に昆虫の観察会を行いました。近江八幡高校の<sup>たかのぶ</sup>南尊彦先生を講師としてお迎えし、Biyoセンターやその周辺の公園をみんなで昆虫採集をしながら、昆虫の生態や特徴を学習しました。

コムラサキ、モンシロチョウ等のチョウや、ギンヤンマ、シヨウリョウバッタ、ツクツクボウシ等、多くの昆虫を観察することができました。



昆虫類を採集開始

昆虫類の採集状況



BYQネットワーク ~協賛グループの紹介~

# 川の会・名張

<http://www.e-net.or.jp/user/yosshi/kawanabari/kawanabarimain.htm>



中西崇雄事務局長

この誌面では、BYQネットワークで活躍されている市民団体にスポットを当て、その活動内容をレポートします。今回は、『川の会・名張』の中西崇雄事務局長にお話を伺いました。

**清** 流の女王アユがすみ、絶滅が危惧されているズナガニゴイも確認されている、名張川。

雄大な木津川の支流で、奈良県の東部から三重県の西部を流れて名張市を貫く、総延長約62kmの河川です。名張市のまちには、この川から水を引き込んだ網目状の水路、築瀬水路やなせがあります。かつては人々が毎日野菜などを洗い、また、たくさんのホテルが舞う美しい水流でした。ところが、昭和30年代頃から生活排水などによって水質が悪化しはじめ、今では、野菜どころか手も洗いたくないような水路となってしまいました。汚れた水は、再び本流に戻るのです――。



築瀬水路の花いかた(16年の歴史)



私も乗れた!カヌー教室

「川の会・名張」は、“緑豊かな自然都市・名張”の水環境を守る市民ネットワーク「名張の川を守る会」として平成元年に結成され、平成6年の名称変更を経て現在に至ります。

「川を守りましょう。汚さないようにしましょう。と声高に叫んでも、効果は薄いでしょ。私でも聞きません。ですから、楽しく、おもしろくするんです。まず、川に興味を抱かせ、気軽に親しんでいただき、川をもう一度好きになってもらう。水環境を保全するためには、遠回りなようでも、それが一番の近道ではないでしょうか」と言う、事務局長の中西崇雄さん。見向きもされなくなった水路に

注目を集めようと、花菖蒲を植えた筏を作って浮かべるイベントは16年も続いています。名張川と歩こう会は、自然とふれあい、お弁当を食べて、ごみも拾います。カヌー教室では、牛乳パックでカヌーを作ったりもします。川原でバウムクーヘンを焼いて食べるイベントもあります。なるほど、どれも楽しそうな活動ばかり。「おもしろくなければ人は集まりませんし、楽しくなければ長続きしません。すべての活動は、さまざまな人々の理解と協力で成り立っています。県や市などの行政機関からも、水質調査資材や清掃用品などを提供していただいたりしています。自由に活動してきた私たちですが、規模も責任も徐々に大きくなってきています。組織体制やネットワークを整備し強化していくことが、今後の課題ですね」と話す中西事務局長の顔つきは真剣であり、そして、やはり楽しそうでもありました。



名張川と歩こう会、炭火焼・竹芯バウムクーヘン!

BYスタンプラリーとは、協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、事務局に送付していただく、素敵な景品を差し上げるというもの。これまで1,125人の方がご応募くださいました。また協賛グループは、46の市民団体と18の水関連施設で構成されています。(平成17年10月1日現在)

## 大阪新阪急ホテル

### 環境への アプローチ

環境問題は一部の限られた専門家だけが取り組む問題ではなく、私たちにとっても身近で重要な問題です。

環境へのアプローチでは、環境への取り組みをさまざまな視点からご紹介しています。

今回は、ホテル事業の常識にとらわれないアイデアにより、汚水・排水の軽減対策に取り組んでいる大阪新阪急ホテルの例をご紹介します。

世界的に地球環境保全が問題となっているなか、大阪新阪急ホテルでは「エコロジー」、「エコノミー」のエコ2運動としてさまざまな環境保全活動を行い、昨年3月に環境マネジメントシステムの国際標準規格である「ISO14001」を認証取得しました。それを機に、より一層環境保全に取り組むための新たな目標を模索した結果、ホテル事業での大量に使用する水に着目し、水質汚染防止という観点から、洗濯による汚水排水の軽減に取り組むこととしました。



その内容は、2泊以上の連続宿泊客を対象として、滞在中の指定期間、ベッドシートの交換を控えて同じものを再使用してもらうという取り組みであり、宿泊客は、賛同された場合、シートについては客室ベッド上に置いてあるドアカードを客室入口ドアの外ノブに掛けることで、交換不要の意思表示をするものです。これにより、洗濯による汚水排水量を低減し、下水処理負荷の低減、最終的には河川の水質汚染防止へとつながり、更には、洗濯に使用する水量も低減でき、節水のほか、経費も節約しています。取り組み導入前には、当然、宿泊客へのサービス低下となることから、宿泊客の協力

が得られないのではないかと不安がありましたが、昨年10月から始めたところ、連続宿泊客のうち、年間約7%の方から賛同がありました。

このように、宿泊客への快適性と相反しつつも、環境への配慮や資源の有効利用などの課題にあえて挑戦され、ホテル事業として重要な制約条件のなかで、環境保全活動に取り組んでいます。



人と地球と環境にやさしい新阪急ホテルをテーマに環境マネジメントシステムの構築に取り組み、平成16年3月に国際規格認定機構の判定委員会を経てISO14001認証取得をいたしました。今後も、エコロジー・エコノミー活動を推進し、環境保全に貢献するよう努めてまいります。

As part of our ongoing effort to build an environmental management system under the theme of "The New Hankyu Hotel, a people-friendly, global-friendly, and community-friendly hotel," we acquired an international certification on March 22, 2004, through the ongoing period of ISO14001 certification by the International Standards Organization (ISO). We will continue to work to promote ecological and economical activities so that we can contribute to preserving the environment.

シーツの交換が不要のお客様は  
このカードをドアの外ノブにお掛け  
ください。清掃係が同じシーツを  
用いてベッドメイクをいたします。

If you do not want your sheets changed,  
hang this card on the outside doorknob.  
The chambermaid will make up your  
bed using the same sheets.

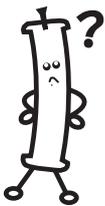
中文請看背面。  
한국어는 뒷면 참조.  
HOTEL new HANKYU

大阪新阪急ホテルのご好意で、  
これら環境保全の取り組みにより  
節約できた費用を当機構に  
ご寄付いただいております。

## 2006年わくわく<sup>2</sup>調査隊 調査隊員大募集！！

身近な川の水を自分で調べてみませんか

### わくわく<sup>2</sup>調査隊って何？



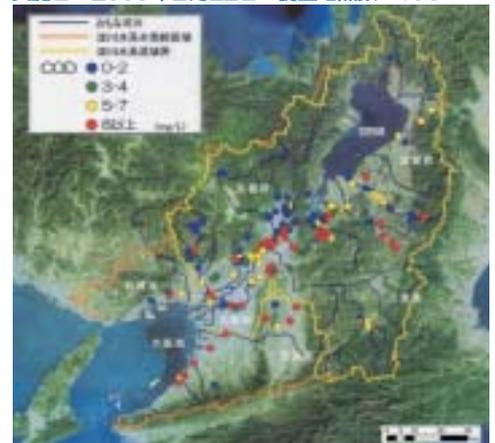
身近な川への関心が薄れてきている中、昔のように川と親しむきっかけをつくることで、水環境を考え直す時間づくりを目指して、平成16年（2004年）から活動を始めています。調査隊員になると、身近な川の汚れ（水質）を簡単なキットを使って調べることが出来ます。調査活動は、1年間で4回（春・夏・秋・冬）を予定しています。1年間を通じて調査に参加すると、水質マップや図書カードを進呈します。

### 応募内容

- 応募資格：琵琶湖・淀川流域に住み、水環境に興味がある方
- 応募期間：平成17年12月23日（金）まで
- 応募方法：申込用紙はBYQホームページ（<http://www.byq.or.jp/>）からダウンロードできます。ホームページをご覧いただけない方は、お問合せ下さい。

### 水質マップ（COD）

実施日：2005年2月22日 調査地点数：193



# 水辺からのメッセージ 大阪湾につながる木津川

淀川水系上流域での取り組み  
三重県伊賀地域を源  
流とする木津川は京  
都府八幡市で、宇治川、  
桂川と合流し、淀川と  
なつて大阪湾にそそぎ

こみます。  
三重県伊賀県  
民局では、淀  
川水系の最上  
流域である木  
津川流域の水  
質の向上、景  
観の保全、生  
態系の回復な  
ど多様な課題  
の解決にむけ、  
伊賀地域の川  
に関係する行

政機関で木津川流域  
リフレッシュ事業推進  
協議会を設立し、行政  
が一体となった取り組  
みを進めています。

今回は、三重県伊賀地域の水環境に対する取り組みと、伊賀の国の魅力についてご紹介いたします。

## 木津川流域いつせい水環境調査

地域住民が自ら川の調査を行うことにより、身近にある川の存在を再認識し、その大切さを実感してもらつたため、伊賀地域の木津川流域45箇所住民、企業、学校などの協力を得て、簡易水質検査キットによる水環境調査を行っています。詳しくは、木津川流域いつせい水環境調査ホームページをご覧ください。  
<http://www.pref.mie.jp/GKIKAKU/HP/kidugawa/index.htm>

## 水環境啓発紙芝居の作成

木津川水系の水環境の改善にむけて、子供たちが水環境についてわかりやすく学習していくための教材として、「紙芝居」を3作品作成しました。現在、貸出を行っていますのでご希望の方はご連絡ください。



問合せ先  
三重県伊賀県民局企画調整部  
電話0595-24-8003

今後、協議会では伊賀地域だけの活動だけでなく、下流域との交流を促進し琵琶湖・淀川水系の一体的な流域圏づくりを展開していきたいと考えますので、流域の皆さんのさらなるご協力とご理解をお願いします。

## 意外と近い「伊賀の国」

木津川の源流地である三重県伊賀地域のことをご存知ですか？川のつながりは人のつながりと言われるように、伊賀は関西地域と歴史文化、人情観などにおいて強い結びつきをもち、「伊賀は関西」という言葉があるくらい密接な関係があります。



赤目四十八滝

また、松尾芭蕉や観阿弥、江戸川乱歩など伊賀からはたくさんの著名人が輩出されています。世界的に有名な「忍者」の里でもあり、日本一高い城郭の石垣を持つ上野城、50を数える大小の滝が水しぶきをあげる赤目四十八滝など観光名所もたくさんあります。ぜひ一度お越し下さい。

三重県地域振興部 資源活用室



上野城

## （財）琵琶湖・淀川水質保全機構 賛助会員（50音順）

計23社（平成17年10月1日現在）

（株）アイ・エヌ・エー関西支店、（株）アクアテルス琵琶湖事業部、（株）環境総合テクノス、近畿技術コンサルタンツ（株）、（株）クリアス、（株）建設環境研究所、（株）建設技術研究所大阪本社、国際航業（株）関西支社、国土環境（株）、滋賀県下水道保全事業協同組合、（株）修成建設コンサルタント、（株）新洲、帝人エコ・サイエンス（株）、（株）東京建設コンサルタント関西支店、東洋電化工業（株）、（株）西日本技術コンサルタント、（株）日建設シビル、（株）日水コン、日本建設コンサルタント（株）大阪支社、日本工営（株）大阪支店、（株）ニュージェック、パシフィックコンサルタンツ（株）大阪本社、八千代エンジニアリング（株）大阪支店



## 財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

〒541-0041 大阪市中央区北浜1丁目1番30号 横井北浜ビル3階

TEL 06-6202-1267 FAX 06-6202-1317

ホームページアドレス <http://www.byq.or.jp/>

## 広告募集

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌「BY BLUE」に広告掲載を希望される水環境関連の企業・団体を募集しています。掲載料等のお問い合わせやお申し込みは、（財）琵琶湖・淀川水質保全機構・企画開発部まで。



古紙含有率100%の再生紙を使用しています。



このパンフレットは大豆油インキを使用しています。

（財）琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼水の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もって潤いのある地域社会の形成と、関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。

「BY BLUE」とは、琵琶湖(BIWAKO)・淀川(YODOGAWA)を青く(BLUE)美しく、という願いから名づけました。